

2026年 アメリカ学会 第60回年次大会 プログラム

1. 開催日 2026年6月6日(土)・6月7日(日)
2. 会場 東京学芸大学 〒184-8501 東京都小金井市貫井北町4-1-1 S棟(南講義棟)
大会企画委員長 中垣 恒太郎 knakagaki アットマーク senshu-u.jp
会場責任者 菅(七戸)美弥 m-suga アットマーク u-gakugei.ac.jp
3. プログラム (報告要旨は別に「報告要旨集」に掲載されます。時間は全て日本標準時です)
 - * タイトルの日英別は発表言語によるものです。
 - * 教室は変更の可能性があります。
 - * 未定部分は今後ホームページにて周知致します。
 - * 今大会の分科会は原則オンラインで開催されます。
4. 共催 東京学芸大学

第1日 2026年6月6日(土)

午前の部

自由論題報告 9:00~10:45

【Session A 古典文学再読 Re-reading Literary Canons】S103 教室

司会：小澤英実(東京学芸大学)

討論者：大串尚代(慶應義塾大学)

1. 報告者：松原留美(九州女子大学)

「終わらない分断

—奴隷解放運動の起点とハリエット・ビーチャー・ストウ『アンクル・トムの小屋』の再検討」

2. 報告者：渡久山幸功(琉球大学)

「美しい執着と痛々しい幻想—アメリカの神話がロマンスと共鳴するとき」

3. 報告者：森脇俊雅(関西学院大学)

「ローラ・インガルス・ワイルダーとアメリカ保守主義」

【Session B 開かれたアメリカ、閉じるアメリカ Open America, Closing America】S203 教室

司会：小川真和子(立命館大学)

討論者：守屋友江(南山大学)

1. 報告者：木村智(ハーバード大学・院)

「1907年の宗教リベラリズム—ボストン知識人と国際宗教運動」

2. 報告者：小澤智子(武蔵野美術大学)

「アメリカを見据えた移民船の『婦人監督』に関する報道」

3. 報告者：大津留(北川)智恵子(関西大学)

「都市と連邦の確執—移民改革管理法と聖域都市」

【Session C アイディア、イデオロギー、政策 Ideas, Ideologies, and Policies】 S303 教室

司会：会沢恒（北海道大学）

討論者：菅原和行（福岡大学）

1. 報告者：藤崎奨大（慶應義塾大学・院）

「州公務員労使紛争の仲裁制度はなぜ導入されたか

—1960年代以降のニューヨーク立法にみる労使関係専門家の役割」

2. 報告者：伊藤孝治（大阪大学）

「海洋ごみ問題の萌芽—1970年代の米国における問題化の過程」

3. 報告者：小椋郁馬（一橋大学）

「アメリカの有権者における社会ソーティングの経験的分析」

休憩 10:45～12:00

午後の部

理事・評議員会 11:00～11:45 S410 教室

清水博賞・中原伸之賞・斎藤眞賞授賞式 12:00～12:20 S410 教室

アメリカ学会設立 60 周年記念企画 S410 教室

第 1 部 会長講演 12:30～14:00（英語）

司会： Nahoko Tsuneyama 常山菜穂子（JAAS 副会長、慶應義塾大学）

講演者：JAAS 会長 Hiroo Nakajima 中嶋啓雄（大阪大学）

ASAK 会長 Ihn-hwi Park（梨花女子大学校）

ASA 次期会長 Tanisha Ford（The City University of New York）

第 2 部 60 周年記念シンポジウム 14:10～17:10

アメリカ研究 60 年—変化と継続、そして未来への展望

Sixty Years of American Studies: Changes, Continuities, and Future Prospects

前半：The Future of American Studies under the Second Trump Administration 14:10～15:30

（英語、質疑応答のみ日英両語）

趣旨説明・司会：Kotaro Nakano 中野耕太郎（JAAS 副会長、東京大学）

発言者：Takeshi Umekawa 梅川健（東京大学）

Yoshiaki Furui 古井義昭（立教大学）

Seiko Mimaki 三牧聖子（同志社大学）

後半：これまでの60年とこれからの展望（日本語） 15:40～17:10

司会：前嶋和弘（JAAS 前会長／上智大学）

発言者：油井大三郎（JAAS 元会長／一橋大学・東京大学名誉教授）

古矢旬（JAAS 元会長／北海道大学・東京大学名誉教授）

松本悠子（JAAS 元会長／中央大学名誉教授）

久保文明（JAAS 元会長／東京大学名誉教授）

高橋裕子（JAAS 元会長／津田塾大学学長）

宇沢美子（JAAS 元会長／慶應義塾大学名誉教授）

懇親会 17:30～19:00 第1むさしのホール

第2日 2026年6月7日（日）

午前部

部会・ワークショップ 9:30～12:00

【ASA ワークショップ "Power and Resistance in Representation: Technology, Media, and Race/Ethnicity"】

S103 教室

Chair: Michael Larson (Keio University 慶應義塾大学)

Discussant: Mari Nagatomi 永富真梨 (Kansai University 関西大学)

Speakers:

Russ Castronovo (ASA, University of Wisconsin-Madison)

“What Time is AI?”

Mark Redondo Villegas (ASA, Franklin & Marshall College)

“Interracial Crossplay from Geeks to MCs”

Keiko Fukunishi 福西恵子 (Doshisha University 同志社大学)

“Paradoxes of American Empire: Whiteness and Blackness in Turn-of-the Twentieth-Century Reenactment Films”

【部会 A アジア・太平洋から見るアメリカ研究—交差する視点、60周年の現在地】 S203 教室

司会：李里花（早稲田大学）

討論者：菅（七戸）美弥（東京学芸大学）

報告者：

飯島真里子（上智大学）

「移動する人・モノがつなぐ『周辺』地域」

齋木郁乃（東京学芸大学）

「帝国主義とアジアの鼓動—環太平洋的視座から読む『白鯨』」

常山菜穂子（慶應義塾大学）

「アジアの視点とアメリカ演劇研究—明治期ハワイにおける太平洋横断的日本人芝居ネットワーク」

【部会 B トランプ政権下の歴史観の再構築】 S303 教室

司会：会沢恒（北海道大学）

討論者：

貴堂嘉之（一橋大学）

報告者：

中野博文（北九州市立大学）

「文化戦争の史的文脈—世界政治に位置づけた右翼ポピュリズムの系譜」

石山徳子（明治大学）

「セトラー・コロニアリズムとトランプ政治—先住民族から上がる声」

秋山かおり（同志社大学）

「敵性外国人法の行使における共通性と非共通性—1941 年と 2025 年」

休憩 12:00～12:45

新理事会 12:10～12:50 W110 教室

総会 12:50～13:20 W110 教室

午後の部

部会・ワークショップ 13:30～16:00

【部会 C アメリカ帝国論の現在】 S203 教室

司会：森丈夫（福岡大学）

討論者：奥田暁代（慶應義塾大学）

報告者：荒木和華子（明治大学）

『『帝国の新時代』のジェンダー史的考察—奴隷制、文明化、使命』

三島武之介（城西国際大学）

「世紀転換期アメリカにおける『大論争』

—グローバルな『非公式帝国』とリージョナルな『公式帝国』のあいだ」

塚田幸光（関西学院大学）

「帝国のマジック—ハリー・フーディーニと世紀末アメリカ」

【部会 D 矛盾と向き合う—加担・抵抗・連帯—研究とアクティヴィズムの現場から】 S303 教室

司会・報告者：中村理香（成城大学）

「BLM 運動下での『コロナ・ヘイトクライム法』への問いとクロス・レイシャルな連帯
—アジアン・アボリションという実践」

報告者：松永京子（広島大学）

「核時代の抵抗とつながりの生態学—1964 年被爆者のハーレム訪問から」

内野クリスタル（同志社大学）

「砦を焼き、未来を築く

—先住民アナキスト批評と反植民地主義的プラクシスとしてのクリティカル・プレイ」

米山リサ（トロント大学）

「連帯のアナロジックスを超えて

—相関性（リレーショナリティ）の思想の系譜とクウィア・オヴ・カラー批評」

4. 注意事項

- 1) 今大会は分科会（オンライン開催）を除き対面のみでの開催となります。
- 2) 大会参加登録は、参加登録ページの URL を、学会ホームページ及び、アメリカ学会会員用メーリングリストにて配信いたしますので、2026 年 5 月 15 日（金）までにお願いたします。会員の方でメールが届かなかった方は、「迷惑メール（junk mail）」フォルダもご確認ください。見つからなかった場合は、お手数をおかけしますが、学会 HP の「お問い合わせ・応募フォーム」の年次大会企画委員会までご連絡ください。
- 3) 年会費の当日払いは受け付けられませんのでご了承ください。
- 4) 会場までの交通アクセスについては、下記 5.の他、学会ホームページをご覧ください。宿泊や交通手段の確保は各自でお願いいたします。
- 5) 非会員の大会参加費は 1,000 円です。大会受付にてお支払いください。
- 6) 理事・評議員会について、弁当の注文は受け付けませんので、ご了承ください。

5. 会場案内

受付	S101 教室
賛助会員（出版社）ブース	S105 教室
会員控室・ゲスト控室	S106 教室
理事控室	S102 教室

〈東京学芸大学へのアクセス〉 ※日曜日は正門からお越しください※

・JR 中央線「武蔵小金井駅」北口より

【徒歩】約 25 分

【京王バス】

〔5 番バス停〕「小平団地」行に乗車、約 10 分「学芸大正門」下車。

〔5 番バス停〕「国分寺駅北口」行に乗車、約 10 分「学芸大正門」下車。

〔6 番バス停〕「中大循環」に乗車、約 10 分。「学芸小前」下車、東門経由構内へ（ただし、日曜日には東門は閉鎖されます）

・JR 中央線「国分寺駅」北口より

【徒歩】約 20 分

【銀河鉄道バス】

〔2 番バス停〕「小平駅南口」行に乗車、約 10 分「学芸大学・辻調理師専門学校 東京」下車、北門経由構内へ。
（ただし、日曜日には北門は閉鎖されます）

【京王バス】

〔5 番バス停〕「武蔵小金井駅北口」行に乗車、約 10 分「学芸大正門」下車。

※自動車での入構はご遠慮頂いております。



第 60 回年次大会分科会のご案内

- * 本大会の分科会は原則オンラインでの開催になります。
- * 未定のスケジュール等については、後日改めて通知いたします。

1. 「アメリカ政治」

責任者：松井孝太（杏林大学） kmatsui アットマーク ks.kyorin-u.ac.jp

報告者①：松本俊太（名城大学）

「アメリカ連邦政府における産業政策論争とその焼き直し：1980-2026」

報告者②：齋藤崇治（名古屋商科大学）

「トランプ政権における連邦検事の抗議の辞任」

開催日時：6月12日（金）19:00～20:40 / Zoom で開催

本年度のアメリカ政治分科会は、2名の会員に最新の研究成果を報告いただく。松本会員は、2010年代頃から先進各国で関心が再興している「産業政策」と総称される政策に関して報告する。アメリカの場合は、建国以来、事実上の産業政策は行われていた一方で、20世紀終盤には、体系的な産業政策の導入を主張する勢力や、その流れを汲むニュー・デモクラットの興亡といった前史を有する。本報告は、この時代から2026年現在までの産業政策をめぐる政治過程を辿り、現在言われていることの多くは、当時の論争と連続したもの、あるいは焼き直しであることを主張する。齋藤会員は、トランプ政権における連邦検事辞任に関する古澤卓也氏（シカゴ大学）との共同研究を報告する。第一次トランプ政権では、トランプによる連邦検察への介入が相次ぎ、それに対して検察官がしばしば自主的に辞任した。とはいえ、こうした辞任は一斉に起こるものではなく、その判断は検察官間においても分かれる。本報告では、第一次トランプ政権における連邦検事辞任を整理し、その背景・要因を分析することを目標とする。

2. 「アメリカ国際関係史研究」

責任者：吉留公太（神奈川大学） ft101846cs アットマーク jindai.jp

「佐藤雅哉著『アメリカはなぜイスラエルを支援するのか—揺れ動くまなざしの歴史』（名古屋大学出版会、2026年）合評会」

報告者：佐藤雅哉（愛知県立大学）

討論者：石黒安里（立命館大学・非常勤講師）

小野沢透（京都大学）

開催日時：6月27日（土）13時～15時30分 / Zoom で開催

佐藤会員の近著『アメリカはなぜイスラエルを支援するのか』の合評会を行う。同書の題に掲げられた問いについて、従来はユダヤ系市民のロビー活動や直近の国際情勢を重視した業績が多かった。佐藤会員は、イスラエルに好意的な言説を生み出しやすいアメリカの社会・文化的文脈に注目し、こうした言説が現実政治に及ぼした影響を歴史的に分析している点に独自性がある。さらに米国政府のイスラエル政策に批判的な勢力にも目配りすることで両国関係を立体的に描き出そうとしている。対象書の理解を深めることによって、アメリカのイスラエル政策や中東国際関係に対するアメリカの関与を分析する視座を再検討する機会としたい。

3. 「日米関係」

本年度休会

4. 「経済・経済史」

責任者：手塚沙織（南山大学）satezuka アットマーク nanzan-u.ac.jp

報告者：安部馨（公益財団法人 高速道路調査会）

「ディズニー進出後のオーランド発展と特別地区」

討論者：加藤一誠（慶應義塾大学）

開催日時：6月5日（金）18:00～19:30／Zoom で開催

本報告は安部馨氏（公益財団法人 高速道路調査会）をお迎えし、フロリダ州オーランドの特別区周辺の交通環境の進展を縦軸として、特別区の役割を中心に論じていただく。フロリダ州オーランドは、ディズニー系のみならず、ユニバーサル系のテーマパークなど数々のアミューズメント施設や宿泊施設を有する全米屈指の観光都市である。その先駆けとなったのは、今日、世界最大の集客数を誇るまでとなったディズニーワールドであり、ディズニー系施設の周辺は特別区（Special District）というオーランド市とは別の行政単位内にある。特別区はディズニーがカリフォルニア州アナハイムでの最初のテーマパークの経験を踏まえてオーランド進出に際して設立したものである。ディズニーが運営権限を実質的に有した概要を説明していただいた後、同区外の交通（道路）環境整備への関与、そして、2022年の同州の「教育における親の権利法（通称「Don't Say Gay」法）」を端緒とした同区の改編までを紹介していただく。

5. 「アジア系アメリカ研究」

責任者：和泉真澄（同志社大学）mizumi アットマーク mail.doshisha.ac.jp

報告者：南川文里（同志社大学）「越境と包摂のコミュニティ史：『リトルトーキョーは語る』を語る」

開催日時：6月11日（木）：18:00-19:30／Zoom で開催（URL等は後日連絡）

報告者は、著書『リトルトーキョーは語る：凝集・越境・包摂の日系アメリカ史』（名古屋大学出版会、2025年）において、20世紀ロスアンジェルスのリトルトーキョーの歴史を、越境的な移動者や非日系人との関係に焦点を当てて描きなおした。本報告では、日系コミュニティにとっての「アウトサイダー」として、シアトルで売春に関わりながらも戦前日本で女性評論家として活躍した山田わか、第二次世界大戦時に国家反逆罪に問われた二世トモヤ・カワキタ、1970年代以降のリトルトーキョー再開発に深く関わったコリア系企業家デヴィッド・ヒョンの3名の経験を取り上げ、それぞれの視角から越境的・包摂的なコミュニティの姿をどのように描くことができるのか、議論したい。

6. 「アメリカ女性史・ジェンダー研究」

責任者：鈴木周太郎（鶴見大学）suzuki-s アットマーク tsurumi-u.ac.jp

報告者：松本悠子（中央大学・名）

「戦場に忘れられた人々」から問い直す歴史研究—人種・ジェンダー・トランスナショナルな視座」

日時：6月12日（金）19:00～20:30／Zoom で開催（URL等は後日連絡）

アメリカ史、ジェンダー史研究の松本悠子氏に、近著である『戦場に忘れられた人々—人種とジェンダーの大戦史』（京都大学学術出版会、2024年）の内容をジェンダー研究の視点からご紹介いただく。第一次世界大戦の「戦場」（米英仏を中心に）における人種、労働、戦死者とナショナリズムなどを一国の枠組みにとらわれずにジェンダーの視点から問題提起されるため、今後のジェンダー研究やトランスナショナル・ヒストリーの展望を考える一助となるのではないだろうか。ジェンダー史、人種史、国際関係史、グローバル・ヒストリーなど、広範な関心を持つ会員による活発な議論を期待したい。分科会の後半では、現在のアメリカの「バックラッシュ」とも言えるような研究環境の中で、ジェンダー研究をどう進めるかなどについて情報や意見を交換する場を設ける。

7. 「アメリカ先住民研究」

責任者：野口久美子（明治学院大学）noguchik アットマーク k.meijigakuin.ac.jp

報告者：内田綾子（名古屋大学）

「アメリカ先住民と地下資源開発の歴史的背景」

日時：6月8日（月）19:00 開始／Zoom で開催

アメリカ西部・中部には、金や石炭、石油、ウランなどの豊富な地下資源が埋蔵され、これらの発見と開発が歴史的に合衆国の進出と先住民政策を左右してきたとも言える。本報告では、20世紀初頭のナヴァホやオーセージの例をとりあげ、居住地域での地下資源開発が部族の土地と自治にどのような影響をもたらしたのかを検討する。それとともに、当時の先住民部族の対応についても考察したい。今日のアメリカでは、アラスカの石油・ガス採掘の規制撤廃、レアアース等を目的としたグリーンランド領有の試みといった動きが見られる。依然として資源獲得競争と経済的な植民地主義が繰り返されようとする中、先住民に多大な影響を及ぼした地下資源開発の歴史的背景を振り返る。

8. 「初期アメリカ」

責任者：鰐淵秀一（明治大学）swanibuchi アットマーク meiji.ac.jp

報告者：鰐淵秀一（明治大学）

討論者：古矢旬（北海道大学・東京大学名誉教授）、遠藤寛文（拓殖大学）

「建国 200 周年から 250 周年へ—史学史的比較の試み」

日時：6月12日（金）18:00~19:30／Zoom で開催

本年はアメリカ独立 250 周年の記念年にあたり、合衆国や世界各国で顕彰事業や記念論集の刊行があいついで企画されている。国内の政治的・社会的分断や国外での軍事行動が影を落とす中での建国記念事業の推進は、どこことなくウォーターゲイト事件やベトナム戦争がもたらした動揺が醒めやらぬ 1976 年の建国 200 周年を彷彿とさせる。本年の初期アメリカ分科会では、この二つの記念年におけるアメリカ建国史研究の比較を通じて、アメリカ建国をめぐる歴史学が社会的状況とどのように結び合って展開してきたかを考えてみたい。まず、報告者（鰐淵）が 1976 年の建国 200 周年前後の革命史の研究動向について概観し、250 周年の状況との比較を試みる。これに対して、遠藤寛文氏からコメントをいただき、続けて古矢旬氏に 1976 年当時のアメリカ社会の状況を伺う。200 周年との比較から、250 周年を歴史的に捉える視座としたい。

9. 「文化・芸術史」

責任者・司会：小林剛（関西大学）go アットマーク kansai-u.ac.jp

座談会 「『歴史修正ミュージアム』をきっかけに考えるミュージアムの今」

討論者：小森真樹（武蔵大学）

横山佐紀（中央大学）

丸山雄生（東海大学）

日時：5月29日（金）16:00~18:00

関西大学東京センターで開催し、その模様を Zoom ミーティングを通じて配信。

アメリカの歴史や文化における多様性の表現をめぐり、トランプ政権がスミソニアン協会や他のミュージアムに対して圧力を強めている。2025年3月27日、トランプ大統領は「アメリカの歴史に真実と健全さを取り戻す」と題する大統領令に署名し、このなかで過去10年にわたる歴史修正主義を強く批判したうえで、スミソニアン協会に広がる「分断的イデオロギー」の影響を問題視した。他にも、ナショナル・ギャラリー・オブ・アートはト

ランプ政権の反 DEI 条項を受け多様性にまつわる部署を閉鎖し、イェール大学美術館は逆にそれに対して異議を唱えるべくアフリカ美術展の開催に向けて申請していた 2 つの連邦補助金を取り下げた。このように新たな文化戦争をめぐる混沌とした状況にある今、今回の分科会では、多様な歴史修正に取り組んでいる欧米のミュージアムを訪問して執筆された小森真樹氏の『歴史修正ミュージアム』を中心にして、著者も交えた座談会を開催したいと思う。座談会は関西大学東京センターで対面開催とし、その模様をオンラインで配信するという形式を採用するので、多くの方に参加していただきたい。

10. 「アメリカ社会と人種」

責任者：山本航平（就実大学） duchpb42 アットマーク gmail.com

報告者：武井寛（岐阜聖徳学園大学）

「ポスト公民権運動時代の住宅政策の変容—1968 年公正住宅法以後のシカゴを事例にして」

日時：6 月 3 日（水）19:00～21:00 / Zoom で開催（URL 等は後日連絡）

本報告は、1960 年代後半以降のポスト公民権運動時代のアメリカ合衆国（以下、アメリカ）において、住宅政策がいかに変容してきたのかを、シカゴに焦点を当てて住宅都市開発省(HUD)やシカゴ住宅局（CHA）の政策、公民権団体の活動、そして不動産業者や銀行に注目して明らかにする。アメリカでは 1968 年公正住宅法が成立した後も、住宅の人種統合はあまり進まなかった。しかし、これまで住宅ローンがなかなか得られなかった黒人にも住宅ローンが徐々に提供されるようになり、マイホームを手に入れる人々が増えてきた。ところが、住宅を手に入れたがローン返済に苦しみ、最終的に住宅を差し押さえられて手放したことで、生活がむしろ不安定になる黒人が増えきた。本報告はこの現象に着目し、市場原理の効率性を重視した 1980 年代の新自由主義時代の前兆として、1960 年代後半から 1970 年代の連邦政府の住宅政策がいかに関西に影響を与えたのかを検証する。

第 61 回年次大会について

第 61 回年次大会は、2027 年 6 月上旬に福岡大学にて開催を予定しています。
開催日時については、後日会報にてお知らせいたします。